

開催日時：平成20年12月19日（金） 15：00～18：00

場 所：大阪赤十字会館 3階 302 会議室

出席委員：池淵委員長, 中川委員, 弘本委員, 堀野委員, 前迫委員, 増田委員

## 1. 議 題

- (1) 議事概要確認
- (2) 河川整備委員会審議スケジュールの変更について
- (3) 一級河川大和川水系石川ブロックの整備の目標について

## 2. 概 要

○議事概要確認

(まとめ)

前回委員会議事概要（案）について確認した。委員会の了解を得て、議事概要となり、ホームページに掲載することとなった。

○河川整備委員会審議スケジュールの変更について

(まとめ)

河川整備委員会審議スケジュールの変更（案）について説明した。委員会の了解を得て、スケジュールを変更することとなった。

○一級河川大和川水系石川ブロックの整備の目標について

(まとめ)

一級河川大和川水系石川ブロック河川整備の目標及び実施に関する事項について説明した。委員会での指摘事項を踏まえ、引き続き審議することとなった。

(委 員) 石川ブロックでの治水の整備目標について、わかりやすく説明して欲しい。

(事務局) 記載方法について、再度検討する。

(委 員) 1/100 の計画流量の妥当性が検証されたからといって、1/10 も妥当とは限らないのではないか。

(委 員) 整備計画の実施に関して、被害が起こったため整備に着手しているという表現になっているが、大阪府のシビルミニマムとして1/10を目指しているのではないか。

(事務局) ご指摘のとおりである。表現について、再度検討する。

(委員) 基本高水のピーク流量決定の総合判断において、大和川基本方針で設定の1/200規模の流量をひとつの判断基準とするのはおかしいのではないか。上下流の話と分けて記載すべき。

(委員) 大和川は1/200で、石川は1/100で改修した場合に、1/200の雨が降ると石川であふれるのではないか。本川は大丈夫だが、支川は被災するという問題はこのため起こるのではないか。

(委員) 流配図において、基本的な方針と整備計画の値の2段書きは記載しないのか。また、石川の場合、大和川基本方針もあるのでどのような記載になるのか。

(事務局) 大和川基本方針の値の出し方についてはまだ協議中であり、記載方法については今後検討を行う。

(委員) 大和川基本方針と石川の基本的な方針で対象の規模が違うため流量の差について直接比較できないが、同一規模で検討して違う値が出たときどのように対応するのか。

(事務局) 雨量解析の対象区域が違うため、雨量や流量等については違いが発生すると考えられる。内容については整理したい。

(委員) 石川の流量を求める際、支川も含め特性曲線法で解析しているにもかかわらず、支川の流量を求めるのにあえて合理式を適用する理由はなぜか。ゲリラ豪雨等を理由に本川・支川でそれぞれ流量を求めているが、全体としてのバランスについて説明が必要。

(委員) 誤差比較について、実測流量のピーク流量に対する誤差比率を適用しているが、一般的な相対誤差でも表現すべき。

(委員) 飽和雨量  $R_{sa}$  について、土地利用の変化が影響すると考えられる。マップを踏まえ示すとともに、感度解析等で影響について確認すること。

(委員) 植生の分布状況について、できるだけ河川の状況がわかるようなところを示してほしい。

(事務局) チェックして再提示する。

(委員) 基本高水検討の項目内に滝畑ダムを含むデータでの検証が含まれる。表現に配慮すること。

(事務局) 表現方法に配慮する。

(委員) 今回の指摘事項を踏まえ、引き続き審議をつづけることとする。